

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会  
第7回 PRA品質確保分科会 議事録

1. 日時 2013年3月11日(月) 9:30~12:00

2. 場所 原子力安全推進協会 第3会議室

3. 出席者

(出席委員) 越塚主査(東大)、成宮副主査(関電)、喜多幹事(TEPSYS)、糸井委員(東大)、大類委員(JNES)、岡野委員(JAEA)、桐本委員(電中研)、倉本委員(NEL)、曾根田委員(日立GE)、小森委員(東芝)、田中委員(MHI)、竹下委員(中電)、村田委員(原安進)、山内委員(東電)(14名)

(欠席委員) 上良委員(原電) (1名)

(常時参加者) 鈴木(TEPSYS) (1名)

(傍聴者) 槇野(中国電力) (1名)

(敬称略)

4. 配布資料

RK4SC7-1 第6回 PRA品質確保分科会議事録(案)

RK4SC7-2 PRA品質確保標準素案

RK4SC7-3 日本原子力学会 春の年会 発表原稿(ドラフト)

RK4SC7-4 PRA品質確保標準 当面のスケジュール

参考資料

参考1 第6回 PRA品質確保分科会議事メモ(案)

参考2 標準委員会でのコメントについて

## 5. 議事内容

### (1) 出席者確認、資料確認

- ・ 喜多幹事より、委員 15 名のうち 14 名が出席しており、決議に必要な定足数（10 名）を満たしていることが報告された。

### (2) 前回議事録の確認（資料 RK4SC7-1）

- ・ 前回議事録について、資料 RK4SC7-1 に基づいて喜多幹事から説明があった。以下の 2 点のコメントがあった。
  1. 村田委員の所属の誤記 誤：原技協⇒正：原安進
  2. P3 上から 3 行目 誤：PRA を活用しない⇒正：専門家判断を活用しない

### (3) 標準素案他

- ・ 喜多幹事から標準素案について（資料 RK4SC7-2）（主に前回分科会からの変更箇所を中心）、標準委員会でのコメントについて（参考・2）、日本原子力学会 春の年会 発表原稿（ドラフト）について（資料 RK4SC7-3）説明があった。

標準のタイトルは資料 RK4SC7-2 に記載のままとし、まえがきは趣意書等を基に新たに作成することとなった。

本文は主に「3.3 PRA 実施者」「5 専門家判断の活用」「6 ピアレビューの実施」について議論がなされた。ピアレビューのチェックリストに関しては、JANTI のピアレビューガイドラインは引用せず、同書の限定配付版のチェックリストをベースに、現行のレベル 1PRA 等の学会標準に従いチェック項目を記入したものとする事となった。

主な質疑応答は以下の通り。

<まえがき>

- ・ 新しい標準であるため、新たに書く必要があることから、趣意書等を基に作成予定

<標準のタイトル>

- ・ 資料 RK4SC7-2 に記載のままとする

<「3.3 PRA 実施者」について>

（越塚主査）注記のところで、「PRA 実施者」「内部専門家」「外部専門家」の定義について、「外部」＝「PRA 実施者以外」となり、P24 の赤の網かけ部の一番下の行の記載を適切に表現する文案と例示をする

<「5 専門家判断の活用」について>

- ・ 5.1 のタイトルについては、「専門家判断を活用する場合」⇒「専門家判断を活用する技術問題」とする

- ・ 要求事項として成り立たせるため、5.1の1行目の「専門家判断を活用できる。」を削除して、1文にする
- ・ 5.1に引用する附属書のタイトルについては、「～技術問題の例」とする
- ・ 5.2「専門家の選定」の附属書タイトルを「より広い見地を得る必要がある例」とする
- ・ P7の附属書 X.1 c)のタイトルは「評価上の仮定及び計算が適切であるかを判断する場合」と記載されていると、どんな時でも外部専門家の判断が必要であるように読めてしまうため、記載の見直しを行う

<「6 ピアレビューの実施」について>

- ・ 6、6.4のタイトルがいずれも「ピアレビューの実施」となっているため、6.4は「ピアレビューの実施手順」、6.4.2「実施」とする
- ・ 6.1（赤網かけ部の）案1と6.4.2（赤網かけ部の）案2は、以前の議論では、ガイドラインやデータベースの変更はピアレビューのスコープに入るという話であったため案2とする
- ・ ピアレビューのチェックリストは、参考扱いとする。JANTIのピアレビューガイドラインは引用せず、同書の限定配付版のチェックリストをベースに、レベル1PRA等の学会標準の項目を本分科会で確認し、チェックリストを作成する。その際、参考にした学会標準の年次（2008年版等）を明記することで、実際チェックリスト使用する際にチェックリスト作成の参考とした学会標準が改定されていた場合に、最新のレベル1PRA等の標準に合わせてチェックリストを作り直す必要があるかどうかを使用者が判断出来る様にしておく。
- ・ 6.5「報告書の作成」において、b)「適応したレビューの方法」とは具体的にどのようなことか分かるように次回の分科会までに、修正案を考える

<日本原子力学会 春の年会 発表原稿（ドラフト）について（資料 RK4SC7-3）>

- ・ スライド8と12は関連する内容であるため続けて説明する方が良い
- ・ スライド13の①「専門家・専門家判断の定義」は議論の途中経過の記載になっているため、修正する

(4) 今後のスケジュールについて

- ・ 次回の分科会は4月2日（火） 9:30～12:00
- ・ 4月3日のリスク専門部会へは諮らず、6月のリスク専門部会へ諮ることとする。

以上